

# 令和3年度 市内遺跡発掘調査報告書

2022

甲賀市教育委員会



# 序

甲賀市は滋賀県の南東部に位置し、国指定史跡である「紫香楽宮跡」・「垂水齋王頼宮跡」・「甲賀郡中惣遺跡群」・「水口岡山城跡」のほか、現在、538箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。また、市域には有形無形を問わず、多くの文化財が地域の皆様によって守られ、大切に受け継がれています。

地域に残る文化財は、先人から受け継いだ貴重な財産であり、この「地域の宝」を守り伝えていくことが私たちの責務であると考えます。本市では令和2年度に『甲賀市文化財保存活用地域計画』を策定し、歴史文化を活かしたまちづくりを推進しています。

本報告書に記載している試掘調査は、開発行為に先立つ調査であり、埋蔵文化財の保護と土地利用の共存を図ることを目的としています。これまでの試掘調査では新たな遺跡を発見するなど、重要な成果をあげています。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和4年（2022年）3月

甲賀市教育委員会  
教育長 西村 文一



## 例 言

1. 本書は、甲賀市教育委員会が令和2年度に実施した試掘調査の概要をまとめたものである。なお、本書に掲載した調査は、令和2年度に現地調査を実施し、令和3年度に整理調査を実施した。
2. 本書で報告している試掘調査にかかる経費は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助金）および滋賀県文化財保存事業費補助金（県費補助金）を得た。
3. 令和2年度および令和3年度の甲賀市教育委員会における調査体制は以下の通りである。  
【令和2・3年度】  
調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 西村 文一  
調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課  
課長 鈴木 良章  
参事 桑田 美佐登  
課長補佐 竹原 勝敏  
埋蔵文化財係長 小谷 徳彦  
主査 渡部 圭一郎  
技師 伊藤 航貴（調査担当者）
4. 本文の執筆・編集は伊藤が行った。また、本書に掲載した図面の作成は伊藤が担当した。
5. 本書で示す北は座標北である。
6. 本書で報告した試掘調査の図面・写真類については、甲賀市教育委員会が保管している。

## 目次

全体概要	1
20-01次・04次・11次・16次 水口城遺跡	3
20-12次 植城遺跡	8
20-14次 北泉遺跡	10
20-17次 今郷シゲ道遺跡	12
20-18次 宮町遺跡	14
20-22次 下浦遺跡	16

## 図版

図1 試掘・分布調査位置図	2
図2 水口城遺跡既往調査位置図	3
図3 20-01,04次 トレンチ位置図	4
図4 土層断面図(20-01次)	4
図5 土層断面図(20-04次)	4
図6 20-11次 トレンチ位置図	4
図7 土層断面図(20-11次)	4
図8 20-16次 トレンチ位置図および土層断面図	5
図9 調査対象範囲位置図	8
図10 トレンチ位置図および土層断面図	9
図11 調査対象範囲位置図	10
図12 トレンチ位置図および土層断面図	11
図13 調査対象範囲位置図	12
図14 トレンチ位置図および土層断面図	13
図15 調査対象範囲位置図	14
図16 トレンチ位置図および土層断面図	15
図17 調査対象範囲位置図	16
図18 トレンチ位置図	17
図19 土層断面図	17

表

表1 試掘・分布調査一覧表 ..... 1

写真

写真1	20-01次	1トレ全景	6
写真2	20-01次	1トレ土層断面(西壁)	6
写真3	20-01次	1トレ土層断面(南壁)	6
写真4	20-04次	トレンチ全景	6
写真5	20-04次	土層断面	6
写真6	20-11次	トレンチ全景	6
写真7	20-11次	土層断面	7
写真8	20-11次	重機掘削	7
写真9	20-16次	1トレ全景(西から)	7
写真10	20-16次	1トレ全景(東から)	7
写真11	20-16次	1トレ土層断面(西壁)	7
写真12	20-16次	2トレ拡張後(西から)	7
写真13	20-16次	4トレ全景(南から)	7
写真14	20-16次	5トレ全景(南から)	7
写真15	20-12次	トレンチ全景	9
写真16	20-12次	土層断面	9
写真17	20-14次	トレンチ全景	11
写真18	20-14次	土層断面	11
写真19	20-17次	トレンチ全景	13
写真20	20-17次	土層断面	13
写真21	20-18次	トレンチ全景	15
写真22	20-18次	土層断面	15
写真23	20-22次	トレンチ全景	17
写真24	20-22次	土層断面	17





## 全体概要

甲賀市では令和2年度に開発事業などにかかる埋蔵文化財の試掘調査及び分布調査を22件実施した。

これらのうち、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施した調査が9件、同範囲外で実施した調査が13件であった。範囲外の調査は「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」の規定に基づき、開発事業の実施に先立ち、遺跡の有無を確認するために試掘調査及び分布調査を実施したものである。なお、開発に伴う試掘調査及び分布調査の件数は、令和元年度より9件増えている。

表1に令和2年度に実施した試掘・分布調査を一覧表にして示した。遺物の出土を確認した調査が2件、遺構の存在を確認した調査は0件であった。

本報告書では、遺跡内で実施した試掘調査についてその概要を記述する。

表1 試掘・分布調査一覧表

調査 次数	調査 開始日	調査 終了日	調査地			目的	目的 詳細	遺跡 有無	遺跡 名称	結果			
			町名	大字	小字					調査面積	遺物	遺構	詳細
20-01次	R2.5.27	R2.5.27	水口町	本丸		個人住宅	個人専用住宅	あり	水口城遺跡	6	△	土師器、儀束供養鉢	×
20-02次	R2.6.2	R2.6.2	信楽町	中野	北堀内	工場	ファブ工場、事務所	無		30.04	×		×
20-06次	R2.7.30	R2.7.30	甲賀町	高野	日誌	※その他開発	太陽光発電	無			×		×
20-10次	R2.7.30	R2.7.30	甲賀町	磯城	池ノ上	※その他開発	太陽光発電	無			×		×
20-16次	R3.1.13	R3.1.15	水口町	梅が丘		宅地造成	宅地造成	あり	水口城遺跡	118.00	×		×
20-03次	R2.6.8	R2.6.8	甲賀町	野田	下瀬	※宅地造成	宅地造成	無		24.00	×		×
20-04次	R2.7.30	R2.7.30	水口町	本丸		個人住宅	個人専用住宅	あり	水口城遺跡	6.00	×		×
20-05次	R2.7.30	R2.7.30	甲賀町	湯日	長野	※その他開発	太陽光発電	無		45.00	×		×
20-06次	R2.7.29	R2.7.29	甲賀町	湯日	藤ヶ谷	※その他開発	太陽光発電	無		18.00	×		×
20-07次	R2.7.30	R2.7.30	甲賀町	湯日	藤ヶ谷	※その他開発	太陽光発電	無		4,875.66	×		×
20-08次	R2.7.30	R2.7.30	甲賀町	湯日	九十筒	※その他開発	太陽光発電	無		2,721.22	×		×
20-11次	R2.7.22	R2.7.22	水口町	中野		個人住宅	個人専用住宅	あり	水口城遺跡	6.00	×		×
20-12次	R2.9.7	R2.9.7	水口町	桶		個人住宅	個人専用住宅	あり	桶城遺跡	3.00	△	須恵器、瓦葺か	×
20-13次	R2.9.28	R2.9.28	甲賀町	野田	下瀬	宅宅	長屋住宅	無		12.00	×		×
20-14次	R2.11.24	R2.11.24	水口町	北栗		※その他開発	立派駐車場	あり	北栗遺跡	8.00	×		×
20-15次	R2.12.17	R2.12.17	水口町	新城	天水	※その他開発	太陽光発電	無		12.00	×		×
20-18次	R3.2.16	R3.2.16	信楽町	賀新		個人住宅	個人専用住宅	あり	賀新遺跡	4.00	×		×
20-17次	R3.1.26	R3.1.26	水口町	寺郷	大水戸	※その他開発	太陽光発電	あり	寺郷シゲ遺跡	12.00	×		×
20-19次	R3.2.12	R3.2.12	土山町	北土山	馬瀬口	工場	事務所、太陽光発電所、駐車場	無		21.00	×		×
20-20次	R3.2.18	R3.2.18	水口町	桶		宅地造成	宅地造成	無		18.00	×		×
20-21次	R3.3.10	R3.3.10	水口町	中野	野田郷	※その他開発	太陽光発電	無		82,588.12	×		×
20-22次	R3.3.30	R3.3.30	甲賀町	野田	下瀬	宅地造成	宅地造成	あり	下瀬遺跡	18.00	×		×

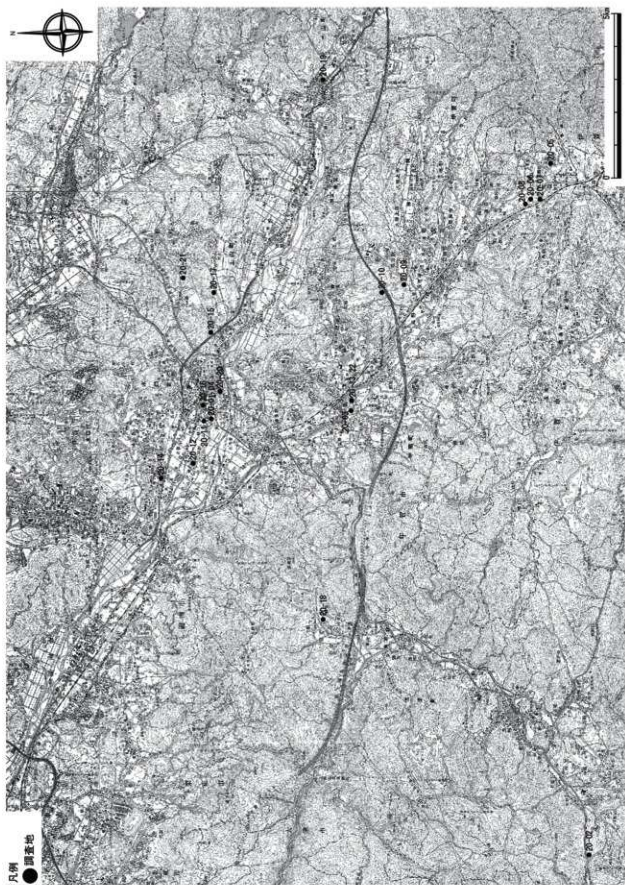


図1 試錐・分布調査位置図

## 20-01次・04次・11次・16次 水口城遺跡

### 調査位置と調査経緯

水口城は、寛永11年(1634年)に徳川家光の上洛時の宿館として築かれた。水口城は、寛永11年に利用されただけで、その後は利用されることがなく、城番によって管理されていた。天和2年(1682年)には加藤明友が水口藩の初代藩主として入封し、居城とした。元禄8年(1695年)には鳥居氏が城主となるが、正徳2年(1712年)に加藤氏が再び入封し、城主となった。明治4年(1871年)には廃藩置県によって大蔵省所有となり、その後払い下げられ、現在は県立水口高等学校のグラウンドとして利用されている。なお、昭和47(1972)年に本丸部分が滋賀県の史跡に指定された。

水口城遺跡は、「水口城郭内絵図」に描かれている、二の丸と家臣団屋敷を含めた郭内が遺跡の範囲である。水口城遺跡では、これまでに本発掘調査は実施しておらず、小規模な試掘調査がほとんどである。試掘調査は、21件実施しており、本丸北西側を中心に近世の遺構や遺物を確認している。15-25次、11-06次、10-25次では、水口城の時期と考えられる遺構のほか、堅穴建物も確認している。また、堀外周を巡る周遊道路工事に伴う試掘調査(05-09次)では、下層から平安時代中期の緑釉陶器などが出土した。しかしながら、遺跡内は宅地化が進んでおり、明確な遺構を確認した調査はごくわずかであり、遺跡の詳細は不明である。

今回報告する、20-01・04・11次は個人住宅の建て替え、20-16次は宅地造成に伴う試掘調査である。

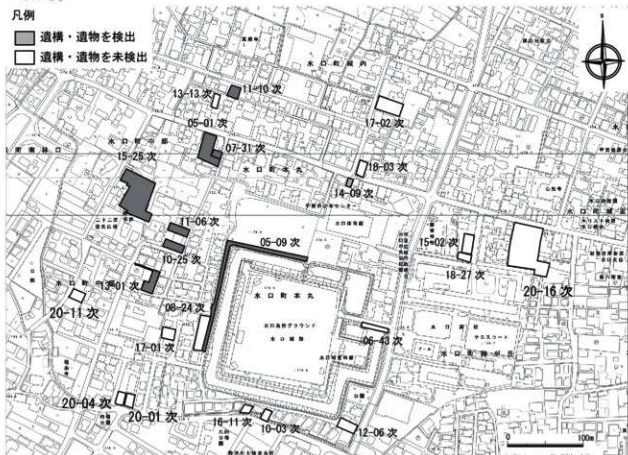


図2 水口城遺跡既往調査位置図

## 写真1 調査概要

### 20-01 次

調査地は遺跡の南端部で、本丸の南西に位置する。調査は2×3mのトレンチを1箇所設定し、調査面積は6㎡となった。基本層序は①灰色土、②暗茶色粘質土、③黄灰色砂礫層、④暗灰色粘質土（礫含む）、⑤明茶色粘質土である。②～⑤層まで現代の造成土であり、今回の工事は掘削深度が約40cmであることから、調査では地山面までの掘削は行わなかった。

今回の調査では、遺構は確認できず、遺物は②層から土師器と信楽焼播鉢が出土した。しかし、小片であることから図化できなかった。

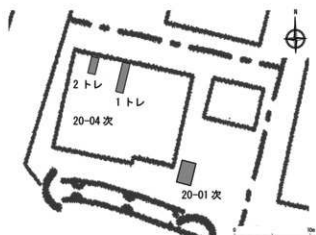
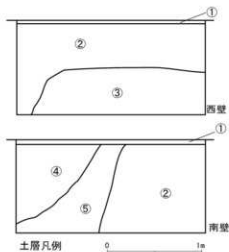


図3 20-01, 04次 トレンチ位置図



土層凡例  
 ①灰色土  
 ②暗茶色粘質土  
 ③黄灰色砂礫層  
 ④暗灰色粘質土（礫含む）  
 ⑤明茶色粘質土

図4 土層断面図(20-01次)

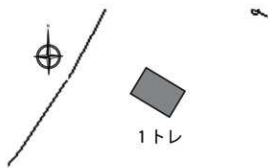


図6 20-11次 トレンチ位置図



図5 土層断面図(20-04次)



図6 20-11次 トレンチ位置図



図7 土層断面図(20-11次)



#### 20-04次

調査地は遺跡の南端部で、20-01次の西側に隣接する。調査は1×4mのトレンチを1箇所と1×2mのトレンチを1箇所設定し、面積は6㎡となった。基本層序は、1トレが①造成土、②暗茶色粘質土、③黄灰色粘質土で、現況地表面より約60cm下で③層を確認した。2トレでは②層の下で礫層を確認した。

今回の調査では、遺構や遺物は確認できなかった。

#### 20-11次

調査地は遺跡の西端部に位置する。調査は2×3mのトレンチを1箇所設定し、調査面積は6㎡となった。基本層序は、①造成土、②黒灰色砂質土、③黒褐色粘質土（礫含む）、④暗茶色砂質土（小礫含む）で、現況地表面より約60cm下で④層を確認した。

今回の調査で、遺構や遺物は確認できなかった。

#### 20-16次

調査地は遺跡の東端、水口城本丸から北東に約250mの地点で、東海道から水口城の本丸へとつながる大手道の推定地にあたる。

調査は16×2mのトレンチを2箇所、12×2mのトレンチを1箇所、5×2mのトレンチを1箇所、2×8m（拡張部2×2m）のトレンチを設定し、調査面積は118㎡となった。基本層序は、①暗茶褐色土（現代の造成土）、②黒褐色粘質土（近代以降の造成土）、③明黄褐色粘質土（遺構検出面）で、現況地表面から約60cm下で③層を確認した。

遺構は、1・2トレで溝や土坑を検出したが、いずれも埋土から近代から現代の陶器や瓦が出土しており、近代以降の宅地に伴う遺構であったとみられる。

## まとめ

今回の調査では、水口城遺跡に関する新たな埋蔵文化財は確認できなかった。既往の調査成果と同様に、遺物は出土するが、遺構は確認できなかった。水口城遺跡は、近代から現代にかけて宅地化が進み、遺構を確認することは少ない。今後も、個人住宅の建て替えに伴う試掘調査の実施は想定されるが、20-16次のように広範囲の調査は稀である。小規模な調査でも調査データを集め、水口城遺跡の様相を明らかにしていきたい。

### 《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第7巻 甲賀の城』

甲賀市教育委員会 2020『令和元年度市内遺跡発掘調査報告書』



写真2 20-01次 1トレンチ全景



写真3 20-01次 1トレンチ土層断面（西壁）



写真4 20-01次 1トレンチ土層断面（南壁）



写真5 20-04次 トレンチ全景



写真6 20-04次 土層断面



写真7 20-11次 トレンチ全景



写真 8 20-11 次 土層断面



写真 9 20-11 次 重機掘削



写真 10 20-16 次 1トレ全景（西から）



写真 11 20-16 次 1トレ全景（東から）



写真 12 20-16 次 1トレ土層断面（西壁）



写真 13 20-16 次 2トレ拡張後（西から）



写真 14 20-16 次 4トレ全景（南から）



写真 15 20-16 次 5トレ全景（南から）

## 20-12次 植城遺跡

### 調査位置と調査経緯

植城遺跡は、水口町植と宇田に位置する城館跡である。現在の植区の集落範囲が城の範囲とほぼ一致している。植村は慶長年間（1596～1615）に清水・大宝寺の二村が、近世東海道の整備に伴い現在地に移転してきたと伝えられる。植城の城主や来歴などは明らかではないが、『甲賀郡志』では山中氏に関わる城跡であると記している。

植城は、土塁と空堀によって囲まれた東西約350m、南北約255mを城域とし、その内部をさらに土塁と空堀で区画する。現在でも「局屋敷」や「北木戸」、「城内」などの小字が残る。城内は、宅地化が進み、堀や土塁は失われ、現在では吉山神社の境内にその一部が残るのみである。

植城遺跡では、平成16年に滋賀県教育委員会がほ場整備に伴う発掘調査を実施し、堀が検出されている。遺物は15～16世紀前半の信楽焼の甕や播鉢などが出土している。これまで4件の試掘調査を実施し、10-18次で遺物が出土したが、それ以外は、遺構や遺物を確認していない。

### 調査概要

調査地は、遺跡の中央やや北側の地点であり、個人住宅の建設に伴う試掘調査である。

調査は1×3mのトレンチを1箇所設定し、調査面積は3㎡となった。基本層序は、①造成土、②暗茶褐色粘質土（礫、コンクリ片含む）、③暗茶褐色粘質土であり、現況地表面から約40cm下で③層を確認した。

今回の調査で遺構は確認できなかったが、②層から須恵器と瓦が出土した。いずれも二次堆積



図9 調査対象範囲位置図



に伴うものである。須恵器は、これまでの植城遺跡の調査でも出土しており、平成16年度の滋賀県教育委員会による発掘調査では、古墳時代の遺構も確認されている。

#### まとめ

今回の調査で、植城遺跡に関する遺構を確認することはできなかった。これまでの調査と同様に、遺物は出土するものの、遺構は確認できないという結果となった。植城遺跡での調査は、今後も個人住宅の建て替えに伴う試掘調査が中心であると考えられるが、調査の進展に期待したい。《参考文献》

甲賀市史編纂委員会 2010『甲賀市史 第7巻 甲賀の城』

甲賀市教育委員会 2020『令和元年度市内遺跡発掘調査報告書』

滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 2006『植城遺跡』



図10 トレンチ位置図および土層断面図



写真16 20-12次 トレンチ全景



写真17 20-12次 土層断面

## 20-14次 北泉遺跡

### 調査位置と調査経緯

北泉遺跡は、水口町北泉に位置する奈良時代の集落遺跡である。遺跡は野洲川が形成した河岸段丘上に位置し、東には北脇遺跡、西には下川原遺跡が所在する。

北泉遺跡では、これまでに11件の試掘調査を実施している。06-21次の調査では、竪穴建物や方形土坑を検出している。10-17次では方形土坑や溝を検出したほか、須恵器や土師器が出土している。遺構や遺物を確認した調査は、この2件のみである。これら以外の調査では遺構・遺物ともに確認できなかった。

北泉遺跡のほぼ中央部には、5世紀中葉後半に築造された泉塚越古墳が存在する。泉塚越古墳では、平成13年度に滋賀県教育委員会によって、国道1号拡幅工事に伴う発掘調査が実施されており、その調査で奈良時代中頃の竪穴建物が確認されている。この調査で検出された竪穴建物は、06-21次や10-17次で検出した遺構と関連すると考えられる。

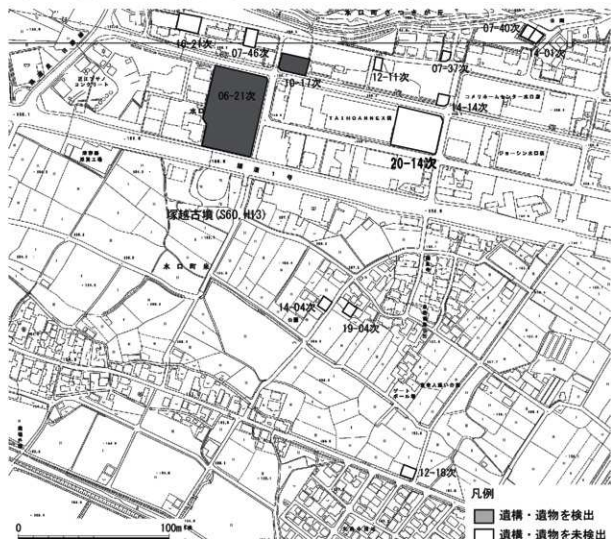


図11 調査対象範囲位置図

## 調査概要

調査地は、遺跡中央で、遺構が確認されている地点から東へ約 200 m の位置にあり、立体駐車場建設に伴う試掘調査である。調査は 2×2 m のトレンチを 2 箇所設定した。基本層序は①アスファルト、②碎石、③黄灰色粘質土、④暗灰色粘質土（地山）で、現況地表面から約 60 cm 下で④層を確認した。

今回の調査では、遺構・遺物ともに確認されなかった。

## まとめ

今回の調査では、北泉遺跡に関する新たな遺構や遺物を確認できなかった。遺跡の北半は、土地区画整理が実施されており、地形が大幅に改変されている。既往の調査からも、遺跡の中心は、泉塚越古墳の周辺であったと考えられ、今回の調査成果を踏まえると、その東方にも遺跡は広がらないと推定できる。

《参考文献》

甲賀市教育委員会 2021『令和 2 年度市内遺跡発掘調査報告書』

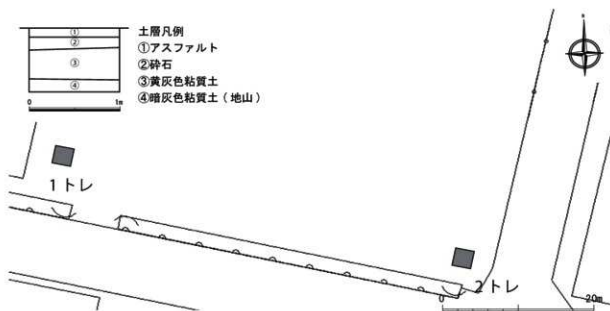


図 12 トレンチ位置図および土層断面図



写真 18 20-14 次 トレンチ全景



写真 19 20-14 次 土層断面

## 20-17次 今郷シゲ道遺跡

### 調査位置と調査経緯

今郷シゲ道遺跡は、水口町今郷に位置する古代の須恵器窯跡である。遺跡は日野町との境の水口丘陵の南側縁辺部に位置し、付近には同じく須恵器窯跡の大田和遺跡、末田遺跡がある。

今郷シゲ道遺跡と隣接する大田和遺跡では、これまでに発掘調査を実施していないが、平成25年度の太陽光発電施設建設に伴う分布調査や甲賀市史編さん事業にかかる調査で、遺物を採集しているほか、灰原を4箇所確認した。このことから複数の窯跡が存在したと考えられ、現状で2基の窯跡を確認している。また、2号窯から東へ500mの地点にある末田遺跡では、窯跡を確認していないものの、遺物を採集している。なお、確認された窯跡と灰原は開発区域から除外され、現状で保存している。

採集した製品は、いずれも断面・表面ともに青灰色を呈する須恵器杯A・杯B蓋・杯B身・皿A・瓶類である。これらの年代観から9世紀前半頃に操業し、杯・皿を主体に、地元向けに生産したと考えられる。

### 調査概要

20-17次は、遺跡の最西端で実施した太陽光発電施設計画に伴うもので、計画区域の一部が今郷シゲ道遺跡の範囲であることから、遺跡の広がりを確認するために、計画に先立ち試掘調査を実施した。調査は2×3mのトレンチを2箇所設定し、面積は12㎡となった。基本層序は①茶

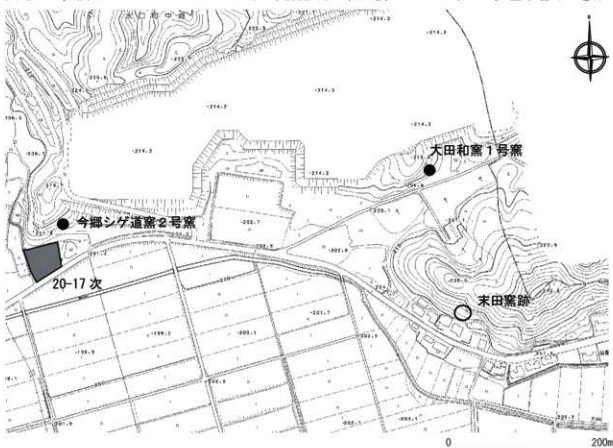


図13 調査対象範囲位置図

褐色土（耕作土）、②暗灰色粘質土、③明黄褐色砂質土（地山）、④黄褐色砂質土（地山）で、現況地表面より約40cm下で③層を確認した。

今回の調査では、遺構・遺物ともに確認できなかった。

#### まとめ

今回の調査では、今郷シゲ道遺跡に関する遺構・遺物は確認できなかった。調査地には窯跡や灰原は存在しなかったと考えられる。

#### 《参考文献》

甲賀市史編さん委員会 2013『甲賀市史』第5巻 信楽焼・考古・美術工芸

甲賀市教育委員会 2015『平成26年度市内遺跡発掘調査報告書』

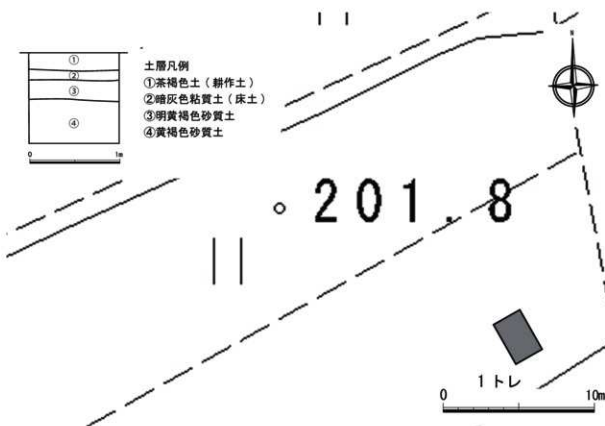


図14 トレンチ位置図および土層断面図



写真20 20-17次 トレンチ全景



写真21 20-17次 土層断面

## 20-18次 宮町遺跡

### 調査位置と調査経緯

宮町遺跡は、信楽地域の最北端、信楽町宮町に位置する都城遺跡で、北、西、東の三方を山に囲まれた、宮町盆地に立地する。

昭和40年代に実施された、ほ場整備で出土した柱根の伐採年代が、年輪年代測定法で天平14年(742年)から16年であると判明したことから、紫香楽宮の中核部として宮町遺跡が目目された。その後、昭和59年から断続的に行われた発掘調査で、宮殿中核部の遺構を確認し、平成17年(2005年)には宮町遺跡の北半部が「史跡紫香楽宮跡」に追加指定された(史跡紫香楽宮跡宮町地区)。

### 調査概要

調査は2×2mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は①暗茶褐色土(耕作土)、②暗茶褐色土混じり黄灰色粘質土(造成土)、③黄灰色砂質土(地山)で、現況地表面より約20cm下で③層を確認した。

今回の調査では、遺構・遺物ともに確認できず、調査地から北に向けて傾斜する地形を確認した。

### まとめ

今回の調査では、宮町遺跡に関する遺構・遺物を確認することはできなかった。既往の調査で

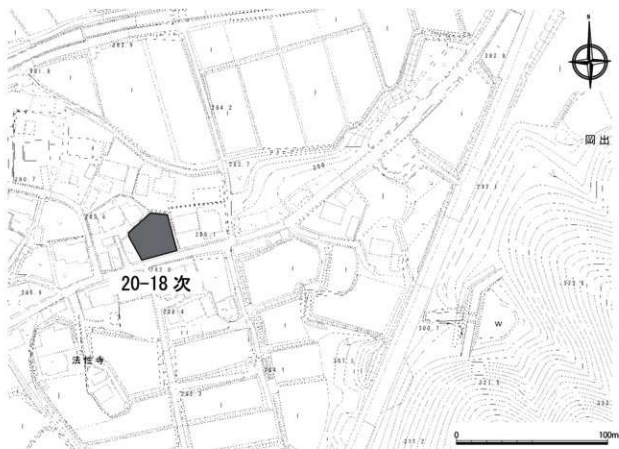


図15 調査対象範囲位置図

は、中世の遺物が一定量出土し、紫香楽宮廃絶後の中世の遺構も検出している。宮町地区の北西には、山岳信仰の霊山である飯道山があり、その山頂には飯道神社があり、かつては飯道寺も存在した。宮町とこれらの寺社との間に関わりがあることも想定でき、中世の遺跡としても注目する必要がある。

《参考文献》

甲賀市史編さん委員会 2013『甲賀市史』第5巻 信楽焼・考古・美術工芸

甲賀市教育委員会 2021『東山遺跡発掘調査報告書』

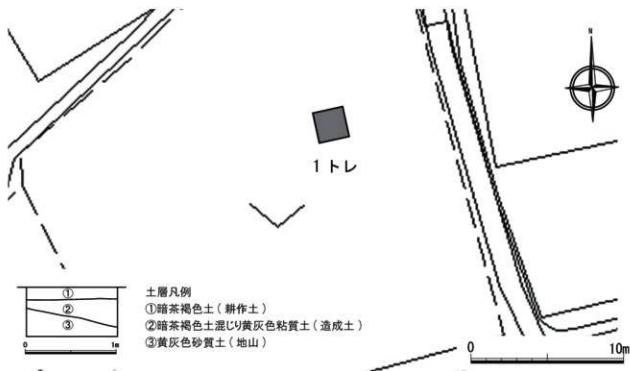


図 16 トレンチ位置図および土層断面図



写真 22 20-18 次 トレンチ全景



写真 23 20-18 次 土層断面

## 20-22次 下浦遺跡

### 調査位置と調査経緯

下浦遺跡は、甲南町野田に位置する古代から中世の散布地である。遺跡は袖川左岸に位置し、南には西藪ノ内遺跡が近接する。

下浦遺跡では、本発掘調査1件、試掘調査7件をこれまでに実施している。平成17年度に実施した店舗建設に伴う本発掘調査では溝および噴砂痕を検出し、緑釉陶器や灰釉陶器、瓦器が出土した。07-23次の調査では遺構は検出できなかったが、土師器や瓦器が出土した。これら以外の調査では遺構・遺物ともに確認できていない。

### 調査概要

調査地は、遺跡の東端に位置し、現況は水田である。今回の調査は、宅地造成に伴う試掘調査である。

調査は2×3mのトレンチを3箇所設定した。基本層序は①暗茶色土（耕作土）、②明灰色粘質土、③灰白色粘質土、④明黄灰色粘質土（確認面）で、現況地表面から約70cmで④層を確認した。

今回の調査では、遺構・遺物ともに確認できなかった。

### まとめ

今回の調査では、下浦遺跡に関する新たな遺構・遺物は確認できなかった。下浦遺跡周辺は、

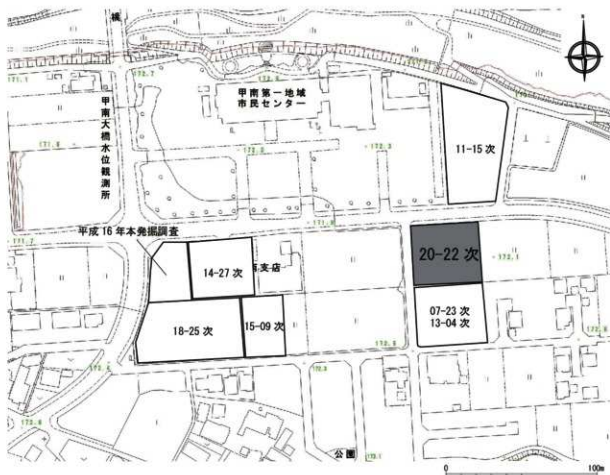


図17 調査対象範囲位置図



宅地化が進んでいる。これまでも試掘調査を実施しているが、遺構の残存状況は良くない。しかし、遺構が残っている箇所もあり、今後の調査の進展に期待したい。

《参考文献》

甲賀市教育委員会 2006『下浦遺跡発掘調査報告書』

甲賀市教育委員会 2015『平成 26 年度 市内遺跡発掘調査報告書』

甲賀市教育委員会 2017『平成 28 年度 市内遺跡発掘調査報告書』

甲賀市教育委員会 2020『令和元年度 市内遺跡発掘調査報告書』

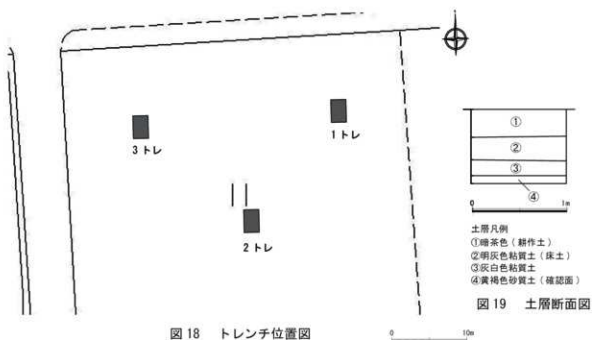
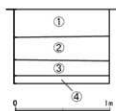


図 18 トレンチ位置図



土層凡例  
 ①暗茶色（耕作土）  
 ②明灰色粘質土（塚土）  
 ③灰白色粘質土  
 ④黄褐色砂質土（確認層）

図 19 土層断面図



写真 24 20-22 次 トレンチ全景



写真 25 20-22 次 土層断面



## 報告書抄録

ふりがな	れいわさんねんど しないいせきはつくつちょうさほうこくしよ							
書名	令和3年度 市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲賀市文化財報告書							
シリーズ番号	第30集							
編者名	伊藤 航貴							
編集機関	甲賀市教育委員会							
所在地	滋賀県甲賀市水口町水口6053番地							
発行年月日	令和4年(2022年)3月25日							
所収遺跡	所在地	コード		世界測地系		調査面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
水口城遺跡	水口町本丸	25209	363-113	34° 96' 96.1"	136° 16' 22.5"	6	2020/5/27	個人住宅
水口城遺跡	水口町本丸	25209	363-113	34° 96' 96.5"	136° 16' 21.2"	6	2020/7/3	個人住宅
水口城遺跡	水口町中郷	25209	363-113	34° 97' 08.9"	136° 16' 14.7"	6	2020/7/22	個人住宅
水口城遺跡	水口町橋が丘	25209	363-113	34° 97' 14.7"	136° 16' 79.5"	118	2021/1/13-15	宅地造成
榑城遺跡	水口町榑	25209	363-025	34° 97' 51.8"	136° 14' 60.8"	3	2020/9/7	個人住宅
北泉遺跡	水口町北泉	25209	363-104	34° 98' 43.7"	136° 14' 12"	8	2020/11/24	立体駐車場
今郷シゲ遺跡	水口町今郷	25209	363-106	34° 96' 89.8"	136° 21' 28.2"	12	2021/1/26	太陽光発電
宮町遺跡	信楽町宮町	25209	367-033	34° 93' 51"	136° 08' 86.3"	4	2021/2/16	個人住宅
下溝遺跡	甲南町野田	25209	363-114	34° 92' 70.9"	136° 16' 93.5"	18	2021/3/30	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
水口城遺跡	城館跡	近世				土師皿、信楽焼楕鉢		
榑城遺跡	城館跡	中世				須恵器、瓦		
北泉遺跡	集落跡	古代						
今郷シゲ遺跡	生産遺跡	古代						
宮町遺跡	都館跡・集落跡	縄文～近世						
下溝遺跡	敷布地	古代～中世						



甲賀市文化財報告書第38集  
令和3年度 市内遺跡発掘調査報告書

印刷・発行 令和4年3月25日  
編集・発行 甲賀市教育委員会  
滋賀県甲賀市水口町水口6053番地  
TEL 0748-69-2250  
FAX 0748-69-2293  
印刷 株式会社トップ

